

馭戎慨言

下之上



元祐記  
印

駆戎慨言下之卷上  
伊勢國 本居宣長著

龜山天皇は庚午文永六年に蒙古の小の使と  
共にありて。射る小矢で。も玉の弓。城をも。の法。征夷  
大將軍。お模國源倉。かくして天下の大將軍。  
今代うりとびを書き。寧府より酒食をあり。かま  
うすむりや。

朝廷

へちまくとく。御教行ん。うそよき。し有り。  
がど。ひきの初例の。のやみうり。あふくてやまふ  
き。向ふえ。八年に。又その。まほ使趙良弼。しよ。者ありて。

不破義次  
靈巖昌贈

統。あ。ふ。今。は。く。ソ。ア。所。よ。つ。シ。ル。ナ。シ。ク。ヒ。メ。シ。ル。ア。ー。  
の。も。も。レ。蒙。古。モ。ド。小。金。ト。ソ。シ。キ。ほ。う。ガ。レ。ア。ム。ク。宋  
を。と。う。ん。ト。モ。う。ち。カ。レ。ア。ト。ア。王。ガ。名。モ。忽。必。烈  
元。の。世。社。ト。ソ。モ。シ。ヤ。ウ。シ。キ。モ。ト。ミ。カ。シ。ル。ア。ー。  
ヘ。ム。レ。う。ト。シ。カ。ハ。登。カ。ラ。ア。モ。リ。モ。う。ク。皇。ミ  
キ。ヒ。う。ト。ソ。ン。モ。ト。シ。カ。ハ。登。カ。ラ。ア。モ。リ。モ。う。ク。皇。ミ  
元。史。ト。考。シ。ム。シ。グ。ミ。世。社。ガ。至。元。三。年。ト。ソ。小。黑。的。殷  
弘。ト。ソ。二。人。の。者。ト。使。ヨ。シ。テ。書。を。寫。シ。ム。モ。書。い。ム。  
大。蒙。古。國。皇。帝。奉。書。日。本。國。王。エ。日。本。開。國。以。來。亦  
時。通。中。國。至。於。朕。躬。而。興。一。乘。之。使。以。通。和。好。冀。

自。今。以。往。通。向。結。好。以。相。親。睦。エ。以。至。用。兵。夫。孰。所。  
好。王。其。圖。之。ト。ソ。ア。リ。エ。の。廉。カ。王。ニ。ソ。ヒ。ツ。モ。ト。レ。イ。仗。を。而  
ベ。モ。シ。テ。行。ア。高。麗。王。モ。ぐ。ソ。ヒ。ツ。モ。ト。レ。シ。リ。ビ。モ。ト。レ。  
ハ。ビ。ト。ク。テ。ゆ。リ。ト。キ。向。み。事。に。ス。ー。ト。あ。こ。ゼ。ー。ト。  
モ。シ。エ。ト。文。入。ア。リ。ト。ホ。モ。モ。テ。又。ハ。ト。ア。リ。ソ。ダ。  
天。皇。モ。ト。う。ソ。ア。の。文。永。六。年。乙。年。九。十。八。レ。以。ハ。シ。レ。ア。モ。廉。  
ア。モ。ヒ。ト。ダ。ト。ヒ。ト。モ。ト。ウ。ソ。ト。レ。レ。シ。リ。シ。カ。ル。モ。ト。  
ひ。多。と。ア。モ。宰。府。リ。ソ。ト。モ。先。テ。レ。シ。ト。モ。同。ト。モ。至。元  
ハ。シ。ク。如。即。發。使。興。之。備。未。其。或。猶。豫。エ。ト。用。兵。王。其。  
セ。年。二。月。下。又。ホ。の。趙。良。弼。モ。ホ。ニ。セ。テ。事。を。有。ア。その。事。象

審圖之成也。是年九月小。る齊の仗。山仗と有  
川も。皇國ノ來。し。つ。また。文永八年にわき  
き。太宰府のつゝき。仗をもてて。蒙古。小王。も  
ま。まをそんと。し。に。來。まわりて。山に

天皇。小。るん。と。ひく。ま。ま。ま。蒙古。れ。仗。東。お。入。食  
か。わ。く。ば。行。あ。う。と。ま。れ。と。も。ひ。て。せ。え。ん。と。ば。別。お。写。  
て。出。一。を。漢。食。ま。く。り。漢。食。ト。う。

皇朝。ま。り。珍。ひ。き。ま。と。或。人。の。り。わ。く。と。し。ゆ。の。大  
ね。軍。へ。あ。と。ま。く。り。と。し。又。け。の。の。軍。ハ。親。ま。く。  
ま。く。小。國。王。と。ア。ラ。と。こ。づ。ハ。む。が。と。し。大。政。軍。は。沙

改。ト。う。よ。う。ハ。げ。ぬ。み。か。と。ハ。ま。と。あ。く。な。か。ぐ。う。ま。と。ま。  
佛。心。の。君。へ。と。く。ま。ま。と。し。ま。と。け。蒙。古。ま。の。ひ。ま。  
い。く。の。や。う。と。ま。と。ゆ。の。教。う。く。ー。て。ス。く。と。ト。シ。て  
あ。ん。よ。ハ。う。と。び。食。、あ。て。ハ。う。と。ば。ト。ト。カ。ア。ふ。汝  
が。王。ア。ト。と。ま。と。と。ひ。く。お。ひ。く。と。と。と。と。と。ま。う。ト。ト  
て。ト。じ。の。く。と。う。と。う。と。バ。主。王。い。く。怒。て。軍。を。ぶ。う。  
佛。國。を。か。う。と。ま。ん。と。そ。る。ひ。ま。く。う。と。と。の。趙  
良。弼。が。あ。り。し。と。ハ。文。永。八。年。は。十。月。と。と。ア。ト  
ト。で。同。九。年。の。冬。と。と。ハ。文。永。八。年。は。十。月。と。と。ア。ト

元。史。の。は。良。弼。が。作。小。居。日。本。歲。餘。と。う。と。バ。し。と。そ。と

の文永十年。蒙古至元十年。その五月。日本  
より遣つて。内侍ふるく。又世祖が年紀と  
十一年六月。かゝりました。船を内侍。元史  
のうち。日本侍へ。至元十年六月。復使。日本と二方來  
し。船どもあらず。船どもりを譲りて。又けり。そよ  
しにす。上の詞を考へに。下ト先來りく  
も。とくとくと。ハスレ。もろい。はまねま  
れ。ゑぬふすゆど。ば日。内侍。かびとく。又皇帝の近  
き代のあたう。文永八年と十年と。二ひ来て  
く。あらひ。五日。内侍。もとて。湯を。又九年

をこえ。スト。流紫。ふるく。と。すり。ハニ  
来つ。まじ。世。ト。サント。ホモ。育。ベト。エ。モ。内。ト。二  
年。一年。ナ。月。五。日。内。蒙。古。の。船。か。く。じ。ド。リ。來。て。外。う。な  
ハ。芽。が。浦。ホ。つ。さ。で。<sup>寇</sup>。う。う。ま。海。う。り。の。う。く。さ。れ。残  
ひ。一。え。カ。及。び。く。づ。く。う。と。内。同。十三。日。カ。く。さ。き  
被。汚。す。で。へ。ひ。ち。き。う。き。の。お。も。と。く。み。れ。と。は。十九  
日。被。衣。筑。か。ま。す。要。先。ま。つ。と。の。う。せ。日の。日。流紫。は  
の。ぬ。を。と。か。く。残。ひ。う。を。だ。の。軍。を。ま。そ  
退。き。ゆ。る。か。り。と。六。月。九。日。の。夜。多。風。ざ。く。く  
あ。す。ま。ね。ど。と。う。す。や。ざ。と。ゆ。が。く。く。く。

のちりしる。一代要記」ハ同廿日始合戰。寧府軍等敗。姓<sup>アサ</sup>安<sup>タシ</sup>同日亥刻許。兵船二艘出未。晴天合戰。非凡慮之所及。側知是神明之化儀也。即異國軍兵退散<sup>ス</sup>。トありたり。元史ホ。至元十一年三月。忻都洪茶丘<sup>ムツク</sup>、ムツク<sup>ムツク</sup>を將軍シテ。大小九百艘の船<sup>一</sup>、一万五千のつくりのをつ<sup>ス</sup>。日本を立久<sup>ス</sup>。至十月、ムツク<sup>ムツク</sup>と<sup>ウツク</sup>、ムツク<sup>ムツク</sup>かくて、ムツク<sup>ムツク</sup>。ムツク<sup>ムツク</sup>。

凌宇<sup>タケフ</sup>多<sup>タカシマ</sup>、天皇<sup>ミタマ</sup>を渉<sup>ス</sup>。建治元年。ムキ又蒙古のムツク<sup>ムツク</sup>。杜世忠<sup>トソク</sup>者を仗<sup>ス</sup>して、馬を手すりや。ば方<sup>カ</sup>も渉<sup>ス</sup>。ムツク<sup>ムツク</sup>。使<sup>ス</sup>を京都へも入<sup>ス</sup>。まごと<sup>モ</sup>。翌<sup>モ</sup>の辛巳の正月、小隱<sup>クシヒ</sup>食<sup>ス</sup>。

キナムラ<sup>従</sup>大輔<sup>オノムラ</sup>を多<sup>タカシマ</sup>など、おを寧府<sup>ニシキ</sup>を出<sup>ハス</sup>ひ<sup>ス</sup>。

天皇<sup>ミタマ</sup>人を<sup>カ</sup>たのむ<sup>ハ</sup>、<sup>シテ</sup>ハ<sup>シテ</sup>、<sup>ハハ</sup>の<sup>ハハ</sup>、<sup>ハハ</sup>て<sup>ハハ</sup>、<sup>ハハ</sup>く<sup>ハハ</sup>ぢ<sup>ハハ</sup>、<sup>ハハ</sup>づ<sup>ハハ</sup>り<sup>ハハ</sup>。<sup>ハハ</sup>ムツク<sup>ムツク</sup>。ムツク<sup>ムツク</sup>。

殺<sup>ス</sup>して、由井<sup>ヲ</sup>の<sup>ハハ</sup>、<sup>ハハ</sup>首<sup>を</sup>、<sup>ハハ</sup>き<sup>シ</sup>。ト<sup>ムツク</sup>。元史<sup>ホ</sup>。至元十二年二月。杜世忠<sup>トソク</sup>何文<sup>ヲ</sup>著<sup>ス</sup>。撒都魯丁<sup>ヲ</sup>遣<sup>ス</sup>。又<sup>ハ</sup>も<sup>ムツク</sup>。又<sup>ハ</sup>も<sup>ムツク</sup>。同十七年二月。日本殺<sup>ス</sup>國使杜世忠<sup>トソク</sup>。ムツク<sup>ムツク</sup>。元<sup>ハ</sup>も<sup>ムツク</sup>。壬元十二年八月。即<sup>ス</sup>建治元年にわざ<sup>ス</sup>。まく杜世忠<sup>トソク</sup>殺<sup>ス</sup>。ハ<sup>シテ</sup>の<sup>ハハ</sup>、<sup>ハハ</sup>年の<sup>ハハ</sup>、<sup>ハハ</sup>年<sup>ムツク</sup>。四十<sup>ハハ</sup>七年<sup>ト</sup>、ムツク<sup>ムツク</sup>。

二年九月。小蒙古の役を殺をしてして。又弘安三年二月  
小杜世忠を殺す。すとあはれ。元史。至元十七年と  
いつたるて。ゆうりうく。そ年のすとらひ得たる也。う。  
そ弘安四年六月。蒙古のり。賊ニシナガワと。ひ。し。く。さ。せ  
そつ皇まもと。年じろちのんじ。もそ。ふととのまうき。そ  
き。そ。ほ。く。は。軍ニシナガワ。而。ま。して。お。と。城。ひ。ま。だ。が。の。  
そう。そ。は。い。ど。も。荒。紫。の。内。い。入。と。う。く。そ。閏  
七月朔日。

天皇神祇官小行幸ミサク。中門大納言經侍卿を勅  
使ミサシ。發遣ハセバシと。ば。ふ。と。

大日本ノ所モ。す。海。ひ。又。ゆ。け。は。は。く。小。も。ひ。の。り。失。育。け  
タ。小。そ。の。あ。う。一。の。心。こ。そ。く。も。る。や。う。り。そ。中。お。お。伊  
勢。の。風。宮。の。木。の。れ。と。く。と。よ。も。く。り。か。く。ホ。も。る  
ア。ラ。キ。の。閏。七。月。那。リ。の。日。は。キ。の。時。で。り。あ。ツ。ラ。キ。ア。ル。風  
む。く。り。て。わ。く。の。船。三。千。五。百。艘。あ。ら。ま。し。小。漁。ト。も。  
し。ひ。う。ち。や。が。く。も。く。か。い。と。死。る。あ。る。よ。か。く。ど。も。鷦。鷯  
ト。ソ。漁。小。も。く。船。を。つ。う。ひ。く。ん。く。り。を。も。又。軍  
軍。五。一。も。そ。そ。く。く。も。ら。だ。の。も。ぎ。く。多。え。元。史。小。  
至。元。十。八。年。正。月。命。日。本。行。省。右。丞。相。阿。刺。軍。右。丞  
范。文。虎。及。脩。都。洪。茶。宣。等。率。十。萬。人。征。日。本。正。六。月

阿刺罕以病不能行。命阿塔海代總軍事。八月。諸將未見敵。全師以還。乃言至日本欲攻太宰府。暴風破舟。未幾敗卒于高脫帰。言官軍六月入海。七月至平臺寫移五龍山。八月一日。風破舟。五日。文虎等諸將各自擇堅好船乘之。棄士卒十餘萬于山下。七日。日本人來戰。盡死。餘二三萬為其虜去。久之莫毒與。兵萬五者亦逃還。十萬之衆得還者三人。月といづ。此時のより平臺嶋と。平戸嶋を以て。五龍山と。ハ。鷹島を以て。鷹嶋と。また玄海と。も寫し。同七月。粉日は風を。八月一日といづ。ハ。皇國と。閏月の大木

矣。了不心御を。皇國放まざむ。も。かく。八月。を。あつたり。元史よりて誤る。や。そぞく。体。よそぞく。以風のようす。たやすく。の軍。れき。びう。せつ。ハ。京。차。東。も。渾。り。使。づ。どく。まく。お。皇。れ。くら。ひ。限。力。も。かく。不。は。方。の。ゆ。や。ま。し。小。ほ。く。も。り。て。残。を。な。く。の。成。秋。云。き。か。ひ。よ。ト。ス。サ。キ。も。よ。ト。シ。ヒ。シ。ヘ。ヒ。ヨ。ア。妙。き。り。ち。う。ト。人。も。サ。サ。の。通。ろ。ト。ヒ。う。ト。モ。リ。ト。モ。走。う。で。後。云。ト。け。や。づ。と。モ。ハ。ア。ヒ。ゆ。の。次。べ。モ。モ。か。も。ト。ハ。ま。ト。れ。ト。モ。ト。モ。ひ。わ。と。も。か。古。陸。の。駆。ひ。

を始まざる。私、公と小アリシテ、ひつハ師  
小は國の海をへざす。さうして山々とのミ  
リヒキハ、いとあらうありまくして以後も蒙古  
將軍不懲に勝てず、かに勝てず。不ふゆんやまくして年々  
軍をまき、移々むねだりとけりて。こゝにち  
生とどけるとはいえも、一もあらず。

伏見天皇の御水仁二年に、御世祖を死。その跡鐵木耳  
ラムをつきて成宗となり。王ましく  
法伏見天皇は、安元年ホ一山とよばしと役ら  
て。書をす。例の淨教す。一山をバツヘて伊豆

は、流す。伏見ハ、いふ。多くも清風ふるぐ  
て、少くもアレバ、かやきとある。と有りて、有  
禪寺の住持。一ぞるまきとる。元史ホ。成宗大德三年  
遣僧寧一山者。加妙慈弘濟大师。附商舶。往使日本  
人竟不至。としをも。そし

淡島天皇は、代す。北條氏大將軍は家の執權と  
いひて。京、鎌倉をあらが。宋朝大臣亮、  
そいくを遣り。天子御す。日暮久のからとのこ叛逆、  
そんとす。かくては、のうのうの蒙古の

す。始より今は北條氏の手ひき。ひきくいふ。まことに  
多くある。すこし一方よぶ。沙義とぞもすく。  
かほ人の例のうなづかせとまじめ。もううのま  
ま。まくいふをあひき。さびぬまとぞく。ひくい  
蒙ちよが、いわひと。うかるをとぞく。ひくい  
せゆぐく。おぼゆるもくして。後代をへ  
ゆきのむ。アム。れよ。トツヤ。サ。美久の、  
れつ。をりよ。大。功。とく。北條公世の死  
つの人きう。さく。かうん有矣。さて

吉野行宮。御室。後村上天皇。御坐。正平の。し。京師を

後光嚴天皇の貞治の年。ひらうの。の。元から  
ひく。朱元璋と。者。まをうどひく。王とう。明  
奸領の太祖く。先。と。す。明と。と。代の。やく。その  
年の。も。皇。の。を。い。と。か。や。了。中。小。通。好。の  
事。を。あ。せ。る。た。し。は。と。中。小。通。好。の  
よ。ひ。す。わ。と。あ。く。と。も。ん。ば。い。と  
う。え。の。す。か。に。あ。は。べ。と。う。と。う。れ。ば。今  
よ。近。き。て。ち。ゆ。つ。ま。で。ま。つ。明。史。と。よ。す。も。と  
滿。ふ。の。日。本。使。ふ。く。洪。武。二。年。三。月。帝。遣。行。人。楊  
載。詔。論。其。國。且。詰。以。入。寇。之。故。謂。宣。朝。則。來。廷。不。則。

修兵自固。倘必獻寇盜。即命將往征。月。王其圖之。日本王良懷不奉命。復寇之。洪武也。太祖之年号。二年。丙午也。是年。京の應安二年。かくも。詰以入寇之故。と。そのうち西の川の運逃を。逃げたる者。やまとも。よも。かへり。いふ。うひ。うふ。今人たゞ。かへり。うす。まづを。とある。せし。日本王良懷。

後醍醐天皇。けゆ。式就。懷良親王。はうち肥後。まゝ菊地肥後守武光。くよん。ほくを。うりあひて。きひつづきて。を。かへり。ほくす。征西將軍と

け。さりて。もの。まつまつ。せよ。と。す。され  
じ。朝主。と。ゆ。國の。主。と。す。て。明王。の。従。と。共處  
小文。と。ま。く。ゆ。日。玉。と。は。ま。く。ゆ。各  
名。ハ。懷良。と。と。と。と。と。と。と。と。良  
懷。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。他書  
書。め。史。ふ。言。と。畧。ま。え。ら。す。と。の。で  
そ。き。ら。す。如。必。為。寇。朕。當。命。舟。師。揚。航。擣。絕。寫。往。行  
直抵。玉。都。生。縛。而。帰。す。と。と。と。と。と。と。と。と。言  
の。か。と。ど。の。を。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

「はうりけかすと。まよひと。がやきふ。  
うかるト。あがめ。行く。じづく。うるを。み玉。然ハ。  
あは人のいもふ。やまよく。まのまむろ。が  
く。まうそすて。ゆいこむじ。せ。ト。ほん。ば。  
やく。ひ。じづく。まく。かまわす。まの  
まく。び。まのまく。ば。死。読。言。  
し。も。まのまく。ば。死。読。言。  
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
し。命。舟。師。ま。と。ま。の。蒙。古。が。や。ふ。又。冠。も。ま。と。ま。り。が。

聖人おひく。し。おひく。し。おひく。の、う  
き。おすと。おき。じ。し。し。し。ま。う  
て。う。ゆ。お。よ。お。ら。若。し。し。し。減。お。い。を。う。い.  
し。皇。玉。と。ば。し。し。し。し。し。し。  
て。お。の。國。の。う。し。く。との。う。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
世。忠。だ。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
け。仗。の。う。お。不。ぬ。う。し。し。し。し。し。し。  
史。小。二。年。三。月。又。遣。某。州。府。同。知。趙。秩。責。讓。之。泛。海。至。  
折。木。崖。入。其。境。守。閩。者。拒。弗。納。秩。以。書。抵。良。懷。良。懷

延秩入諭以中國威德而詔書有責其不臣語良懷  
曰吾國雖處桑東未嘗不慕中國惟蒙古與我等夷  
乃設臣妾我我先王不服乃使其臣趙姓者誅我以  
好語語未既水軍十萬列海岸矣以天之靈雷霆波  
濤一時軍盡覆今斬天子虜半夏天使亦趙姓宣蒙  
古裔耶亦將誅我以好語而襲我也目左右持兵之  
秩不為動徐曰我大明天子神聖文武非蒙古比我  
亦非蒙古使者後能兵兵我良懷氣沮下堂延秩禮  
遇甚優遣其僧祖永奉表稱臣貢馬及方物且送還  
明台二郡被掠人口七十餘以四年十月至京太祖

嘉之宴賚其使者念其俗侮佛可以西方教誘之也  
奪命僧祖廟先勤寺八人送使者還國賜良懷大統  
曆及文綺紗羅云。三年八月洪武三年也諭以中國  
威德久矣例之王。以小之主也。之主也。謂之國  
方也。謂之主也。主也。謂之國方也。謂之主也。  
天皇。主也。謂之國方也。謂之主也。謂之國方也。  
天皇。主也。謂之國方也。謂之主也。謂之國方也。

大渢オガミのえは日嗣ヒツキをうき侍シテり。渢オガミひく。人ヒトのきミくミ

西ニシんシ。やハいハくハ。まハを慕ハひハ。べハくハ。うハくハ。

戎狄

ヤ。又蒙古モンゴル興スル我等タタラ夷ハとハ。すくふハ。まハきミ。わハぐハくハ。我タタラ

し夷ハとハ。しハもハ。もハとハ。明ミを中華チナうハして。蒙古モンゴルと  
夷ハとハ。しハもハ。もハとハ。明ミを中華チナうハして。蒙古モンゴルと

夷ハとハ。しハもハ。もハとハ。明ミを中華チナうハして。蒙古モンゴルと  
夷ハとハ。しハもハ。もハとハ。明ミを中華チナうハして。蒙古モンゴルと

夷ハとハ。しハもハ。もハとハ。明ミを中華チナうハして。蒙古モンゴルと  
夷ハとハ。しハもハ。もハとハ。明ミを中華チナうハして。蒙古モンゴルと

無礼

戎狄モンゴルあハとハ。のハきらハくハんハ。のハくハ蒙モンゴルのハト  
ちハうハとハ。北條キタエが文フウ入リ。しハ。もハうハぐハ。のハとハ。中  
華チナにハうハぐハ。かハくハ。わハすハねハ。明ミの使ハシマ。やハうハくハ。

3. どもあハん。先ハて今ハ國カニもハのハ、まハうハとハ。うハうハとハ。

無禮

じハば仗ハサウエのハよハ。なハまハうハて。例ハのハよハうハとハ。作ハり  
そハくハ。しハ。おハかハくハ。スハレハ。もハとハ。うハうハ。  
まハとハ。わハすハ。おハいハ。ひハ。とハ。ハハ。とハ。うハうハ。  
つ。其ハ臣ハ趙ハ姓ハ者ハ。詠ハ我ハ以ハ好ハ語ハ。とハ。是ハ趙ハ良ハ弼ハ。事ハ。そ  
ほハとハ。わハかハ。わハかハ。詠ハ我ハ以ハ好ハ語ハ。とハ。是ハ趙ハ良ハ弼ハ。事ハ。  
りハはハ。向ハ。みハりハ。京ハ。詠ハ我ハ以ハ好ハ語ハ。とハ。是ハ趙ハ良ハ弼ハ。事ハ。  
王ハ使ハ。天ハ使ハ。ひハ傳ハ。半ハ。但ハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。  
とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。  
王ハのハかハくハのハよハ。おハかハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。  
とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。  
とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。  
とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。とハ。  
漢籍

ひて。あひうやまのふよ。がどうり。おくし。我大明天

子。神聖文武。非蒙古比。例のぞあり。とし。

ひとのこゑ。人をあざじく。のものせし。明

の。成。蒙古を行。異をすん。良懷氣沮下堂。まことし

例れまく。ゆめ。と。まともすん。ハ。とく

けさう。スミ、鳥獸。も。わ。他。むのをす。り。し

まれ行ふ。ま。まく。人。も。まへ。もしら。う。の王。が。役。よ

まき。ひき。ば。ゆく。人。も。まへ。もしら。う。の王。が。役。よ

うつう。を。わ。く。せ。か。く。て。ま。う。そ。ぐ。し。ま。く

ま。ま。皇。む。人の。は。く。ふ。う。ご。ぶ。よ。く

や。れ。り。の。う。と。さ。ぱ。り。あ。き。と。も。ふ。く。ひ。く。  
傍。車。ぞ。や。能。兵。兵。我。と。い。ん。よ。ひ。役。し。く。も。て。か  
ん。も。か。で。ふ。と。う。ん。と。ど。け。方。じ。う。斧。を。け。し  
て。済。世。み。け。ち。き。難。に。ひ。き。わ。と。く。を。そ。て。  
又。も。す。が。も。と。ど。く。て。多。い。じ。よ。ひ。る。ひ。い。あ。て  
し。く。く。と。た。く。ふ。ひ。き。う。さて。ぶ。ひ。う。へ。く。べ。す。と。き  
し。え。濟。世。ま。か。し。僧。祖。圓。ハ。り。う。う。の天寧  
寺。と。寺。の。住。む。ま。え。仲。獻。と。り。よ。克。勒。と。尼。官。寺。と  
ふ。う。は。住。ぬ。無。遠。と。い。ア。ル。ヒ。二。人。力。け。り。し。の。濟

國。の。善。隣。國。宝。記。ア。リ。キ。テ。ハ。應。安。六。年。小。訪。ア。マ

で。多く。久しく。紙紫亦さうあり。モ詔亦克勒。序

少の天台座主の諱へからりて書。けり。もあらべく。

尾官為天台教寺衆即推某主之。蓋前兩年皇帝凡

三。命使于日本。陝西親王皆自納之。于時以祖來入

朝。稱賀。帝召天寧禪寺住持祖庫。尾官教寺住持某。

命曰。朕三遣使于日本者。意在見其持明天皇。今閩

西之來非朕本意。以其閩禁非僧不通故。欲命汝二

人密以朕意往告之。曰。中國更主建號大明改元洪

武。鄉以詔來。故悉阻於閩西。今密以我二人告王。知

之。大國之民數寇我疆。王宜禁之。商賈不通。王宜通

之。與之循唐宋故事。脩好如初。又命曰。朕聞其君臣  
上下咸知奉佛敬僧。非汝僧不足以取信。汝不  
可不命曰。朕三遣使于日本者。意在見其持明天皇。  
今閩西之來非朕本意。といつてんぬれども。一主  
天皇。もとよりは。もとより書の中止。その後をもとど  
りしも。のままで。ふくべく。うそく。ハスレ。ば。方の二人の不  
本の。のままで。が。かねまでもとのまでも。のまでも。のまでも。  
猶かまと。持明天皇閩西親王。うそく。す。が。か。

の謂。まことに王の如きは二人  
の子のものもしくつともいへし。又、阮紫  
冬くもかくもやがふ。皇の力をやうとえづくら  
懷良親王などとくねくね。居るくらう。そ  
まくは

天皇が御許にあり。まひつきをけくもんとゆめ  
ぐりそほ去れ。かくして。ゆもぎとひ。かくくわくと。し  
かくうりうり。かくて。あは。の王が仗りまつて。は  
ぬくじ。参そまく。先そて。慈安六年の六月。かく  
の不せ。九月。尔く。つう。明史。1。祖廟等既至

為其國演教。其國人頗敬信。而王則傲慢無禮。拘之。  
二十年。以七年五月。還京。時良懷年少。有持明者。與之  
爭立。國內亂。とく。とく二人のむし。とく。とく。よ  
うて。争ひ。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

天皇のゆす。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

後深草天皇も。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

島山

天子

淺原をえまひあして。ゆきだらをだ。<sup>皇統</sup> 持明院殿と  
天台<sup>天台</sup> カルアシト。ははのいし。統宗もてはくすて。天台  
座もへあくまつし。すと。持明天皇とし。まへく  
そくと。あはる。とすて。くへあすまし。持明天  
皇と懷良親王と。立本をやうひりふと。足利氏の  
ゆくふ。うくくも。うくで。うくへ。うくへ。うく  
ははる。洪武七年又九年又十二年と。ゆふ人のよこ  
しにはつり。うくと。うくし。史とあくと。うくと。よ  
くと。はくと。うくと。うくと。次十三年復貢無表。但持

其征夷將軍源義滿奉丞相書。書辭入倨。乃却其貢。  
遣使齋詔謙讓。十四年復來貢。帝再却之。命礼官移  
書責其王。并責其征夷將軍。示以欲征之意。良懷上  
言。臣聞云。帝得表愠甚。終鑑蒙古之轍。不加兵也。以  
是。是洪武十三年也。京師の康暦二年にはまつり。  
鹿苑院大内軍のりり。一。一。一。一。一。一。  
やか。やか。一。一。一。一。一。一。一。  
一。一。一。一。一。一。一。一。  
尚書主意專答日本國王。もと。もと。もと。もと。  
年。の。の。の。の。の。の。の。の。

よ。うとも懷良親王へも。せしむし。けまの祠也。例の  
ひづりもゆりも。そんくふく。又はぬ間じ寛  
人なり。征夷大將軍へも。そんくふく。又はぬ間じ寛  
尚書至意。日本征夷大將軍。といつて。まちば中爾。  
前年奉書我朝。丞相。といひ。又洪武十二年。將軍奉書  
きくいづ祠わまば。まと鹿苑院。大内軍へも。そく。并  
責其征夷將軍。といつて。ハシモヒ。おの坊をそく。小さ  
ね。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。  
といつて。ゆあれる。め史尔書辭。又。併  
も。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。おもむき。

て。す。あ。一。既。す。しが。き。み。王。さ。ぐ。く。み。ひ。く。に。か。ど。居  
す。ゑ。ハ。思。り。ぞ。く。え。皇。ま。の。神。書。法。祠。を。く。し。併。と。ひ  
て。ひ。づ。り。小。こ。ざ。か。な。は。い。し。や。く。そ。く。そ。く。に。う。を  
入。内。寺。を。入。み。り。く。は。く。良。懷。上。言。と。あ。く。さ。く。そ。の。ふ。も  
次。が。く。臣。聞。三。皇。立。極。並。帝。禪。宗。惟。中。華。而。有。主。豈  
夷。狄。而。無。君。法。く。臣。居。遠。弱。之。倭。偏。小。之。國。城。池。不  
滿。六。十。封。疆。不。足。三。千。尚。存。知。足。之。心。陛。下。作。中。華  
斐。直。為。萬。束。之。君。地。池。數。千。餘。封。疆。百。萬。里。猶。有。不  
足。之。心。當。起。滅。絕。之。意。云。云。臣。聞。天。朝。有。興。戰。之。策。  
外。邦。亦。有。禦。敵。之。圖。云。云。又。聞。陛。下。選。股。肱。之。將。起。

精銳之師來侵。臣境水濱之地。山海之洲。自在其備。

宣肯跪途而奉之乎。不。臣何懼哉。我猶君勝。臣負。鳥

滿上國之意。設臣勝。君負。不作小邦之利。自古謂和。

為上罷戰。為強免生靈之塗炭。救黎庶之艱辛。年々

進貢於上國歲歲稱臣於弱倭。命遣使臣。敬詣丹墀。

臣誠惶誠恐誓首頓首謹具表以聞。乞許。國事。是

空之書。乞以所給。付之。字。亦。乞。付。所。

御。乞。付。所。全。浙。兵。制。付。所。戒。嚴。王。

皇。嘸。之。文。辭。乞。付。所。二。首。題

愚行成表。乞。付。所。戒。嚴。王。思。行。成。乞。付。所。

御内内。いとしきむせり。こゝれがこの御内

代。他 國 かくよひつゝて。度のそまで大済事のむらを

のこしゆ。すとすと代りあそぶ。くもくつこま

くつか。くもくけぬ。行者、うきおひづく草

あじ。そのうえ葉吹りくふ。まうちひづら公 卿 べまく。ま

きをうやく。まばたく。うひくもくをこ

やへともうだ。まほごのこく。かくしんのねも、まか

ろく。かくゆのまくらとへし。せゆいとまくが

う。かくふくはくくわし。作でく。かくせ

し。こそかくしはくじぐ。すふやくきゆく。栗散國

佛 書 栗散國

きいすくふくまく。皇玉を下す。らせうとま

のくまくひそと。すきと。上と下とくべてこふと

おふわく。えりかくのふをば。まのものもか。

いすく大きふ。おなまくのうをあとくとく。

かく彼をばく。皇玉をばちひまくのうをあとく

平記ふ。お弘安のし。蒙古の賊 やくひのうをあとく

すをあす。大元の老皇奉<sup>シテ</sup> ふ支那四百州を

すりて。日本をさうんく。めのよきをまけば。え

まく立タチへんか。三百七十万隊を計る。山勢を大船

七万よ被<sup>シ</sup>まのを。すをまつとあすなり。今元史を尋ふ。

きぬの<sup>レ</sup>兵<sup>賊</sup>。のりてくり。三十萬人も。こもとしに

百せナ第<sup>シ</sup>端<sup>ハ</sup>。こもとしに。ひづりがくばや。又り

北文源の<sup>シ</sup>。終鮮<sup>ウル</sup>の時<sup>ハ</sup>。の玉<sup>ヒタチ</sup>終鮮<sup>ウル</sup>をもひ

十軍を。大國紀と<sup>シ</sup>去ふ。漢南の勢<sup>ハ</sup>弱<sup>ム</sup>漢<sup>ミ</sup>を來

シテ<sup>シ</sup>。すもと今り<sup>シ</sup>。のち<sup>ハ</sup>のあ<sup>ハ</sup>じと以て考

ふ。小<sup>シ</sup>のいども<sup>故</sup>。ひふ生<sup>ス</sup>。とく。すもと<sup>シ</sup>人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>を

かうり。とくとく皇<sup>ミ</sup>人のり<sup>シ</sup>。を仰<sup>ギ</sup>キ<sup>シ</sup>。とく

すもと<sup>シ</sup>人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>。ひふ人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>。とく。すもと<sup>シ</sup>を

すもと<sup>シ</sup>人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>。ひふ人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>。とく。すもと<sup>シ</sup>を

すもと<sup>シ</sup>人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>。ひふ人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>。とく。すもと<sup>シ</sup>を

きう<sup>シ</sup>。のまん。まくはけまうし。ひり<sup>シ</sup>。ハ<sup>シ</sup>。と  
かと<sup>シ</sup>。又<sup>シ</sup>。他<sup>シ</sup>。雪<sup>ニ</sup>。皇<sup>ミ</sup>。で<sup>シ</sup>。盛<sup>ウ</sup>。すもと<sup>シ</sup>  
くすもと<sup>シ</sup>。そのうへ。人<sup>民</sup>。民<sup>シ</sup>。たれい。や。差<sup>シ</sup>。え<sup>シ</sup>。え  
て。からも<sup>シ</sup>。ひ<sup>シ</sup>。教<sup>ト</sup>。も<sup>シ</sup>。ん<sup>ハ</sup>。と<sup>シ</sup>。り<sup>シ</sup>。  
ト<sup>シ</sup>。ひ<sup>シ</sup>。も<sup>シ</sup>。み<sup>シ</sup>。の<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。バ<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。す<sup>シ</sup>。  
南倭北虜<sup>シ</sup>とい<sup>シ</sup>。又強大之國<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。ひ<sup>シ</sup>。は<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。  
モ。も<sup>シ</sup>。ひ<sup>シ</sup>。も<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。ね<sup>シ</sup>。の<sup>シ</sup>。さ<sup>シ</sup>。か<sup>シ</sup>。く<sup>シ</sup>。  
く<sup>シ</sup>。く<sup>シ</sup>。人<sup>フ</sup>も<sup>シ</sup>。ひ<sup>シ</sup>。も<sup>シ</sup>。べ<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。も<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。く<sup>シ</sup>。

えもんがくもくちひくとすすふ。はらのころ  
ぞや。終鑑蒙古之轍、不加兵也といふ。まく小さくそ  
きびと。まくく、いふ。まくをりうそ。あがみ  
一かくしゆう。うへりがく。みまうる臣胡惟庸とよも  
の。おもふ玉と、おもんとくわけふ事も一かくし  
きく殺すとゆうと。皇室の人もゆくとくして。おもゆく  
おもゆくゆくとゆく。後おうづきとくふくとく。おも、し  
くく、うりて。今よりつらハ辛くいいくと。日和くさじつ  
好い。まく、禁カ通ウワ。おもくとくとく。おもくく、皇室の人  
の。おの胡惟庸かくもく。おのハ物のぬの不くのりのり  
く。

リのサウ。又モ征西校主御津井内、ちうりくとく  
トヤ有さん。おもとくは鹿苑院、大將軍の。おもの  
丞相の御もとくは鹿苑院。御もとくは。御もとくは。  
おもとくは。おもとくは。後  
後小松天皇御津井應永八年九月鹿苑院前大將軍  
明王ミヤヒロと。彼ヒテも使をす。もとくは。もとくは。  
もとくは。彼ヒテも使をす。もとくは。もとくは。  
小善隣國宝記ふれ。おもとくは。おもとくは。既  
く死く。孫惠帝ミツヒタチと。おもとくは。建文と。り。在り  
く。おもとくは。應永九年九月とくらの

燕王もとより。成祖とよしもじ。うとうとばを。祀墓

のまをよし。ひくじ。ひくじ。と奉に。又。拂役つづて。拂書をかうり。明史。成祖即位。遣使以登極。詔諭其國。永樂元年。又。遣左通政趙居仁行人張洪偕僧道成往。將行。而其貢使已達寧波。禮官李至剛奏。故事番使入中國。不得私携兵器。鬻民。宣勅所司覈其船。諸犯禁者悉籍送京師。帝曰。外夷修貢。履險蹈危。來遠所費实多。有所齎以助資。亦人情。豈可堅拘以禁令。至其兵器亦准時直市之。毋阻向化。十月使者至。

上王源道義表及貢物。帝厚禮之。遣官偕其使還。貢道義冠服龜鈕金章。及錦綺紗羅。とよし。成祖。太祖。子。父。乃。汝。と。ま。し。り。を。だ。じ。か。と。又。一。と。皇。少。一。使。を。あ。さ。う。て。す。り。又。お。乃。お。そ。い。お。と。や。だ。か。て。お。乃。に。ひ。り。て。お。洋。役。の。禁。り。の。物。お。禁。り。が。ふ。る。小。お。主。と。皇。少。を。你。く。そ。ひ。く。と。そ。じ。づ。び。す。ん。と。品。ひ。く。と。お。小。お。主。と。了。お。ど。と。く。と。く。と。永。樂。元。年。と。よ。り。と。お。應。永。十。年。お。う。と。と。バ。と。と。九。年。お。け。う。と。け。役。し。玉。宝。記。を。考。え。と。と。ハ。建。文。の。王。が。り。く。う。り。善。り。役。を。す。り。し。ち。の。又。拂。役。と。と。と。遣。

ノハタリ。彼云。トモムキケド。セクシテ  
ノホシ。ハタリ人ウムヒムイホ。ヤズケル。ホモニ王を  
レキ。ソメノハタリのど、ヒキテ。キスカヒシ。シテ。サキ  
ニ啓。中興之洪業。ナガツメ。レカ。エコロガビテ。明の代  
トキアリ。タタガヒ。タタガヒ。成祖。トキアリ。シル  
多。タタガヒ。タタガヒ。又モニ改テ。按。トキアリ。シル  
リ。タタガヒ。タタガヒ。成祖。トキアリ。シル。シ  
明史。明年十一月。来賀。冊立。皇太子。時。對馬。壹岐  
諸島。賊。掠。滨海居民。因。諭。其王。捕。之。王。發。兵。繫。其魁  
二十人。以。三年十一月。獻。於朝。且。修。貢。帝。益。嘉。之。遣

鴻臚寺少卿潘賜。偕中官王進。賜。其王。九章冕服。及  
錢鈔錦綺。加等而還。其所獻之人。令。其國。自治之。使  
者。至。寧波。盡置其人。於。覲。燕。殺。之。同年。太宗  
樂二年。國賓。北上。是方。之。因。三年。而。之。立。之。  
之。以。事。公。不。了。已。之。事。之。事。之。事。  
之。三年。始。善。而。永。樂。二。年。正。月。十六。日。而。有。子。先。  
之。而。貳。將。子。之。之。之。之。之。之。  
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。  
之。之。之。之。之。之。之。之。之。  
之。之。之。之。之。之。之。之。之。

刑法

て。いとうらふく。の史よ又じく。明年正月。又遣侍郎俞士吉齋重書褒嘉賜費優渥。封其國之山為壽安鎮國之山。御製碑文立其上。六月使未謝。賜冕服。し。明年トハ内に年。封其國之山トハ肥後玉の阿蘇山しげ山し。もふうに神の清り度て。けふ靈異。かうす山うす。戎王がつくりて。もくまく角文を碑。し。かくてもとぎんち。とぎぶらり。け。建鷗。三今しうる。う。う。ば。やくかく。き。そもうだまし。そとあくまどトハ。け。道義と目不

國王小封。勘合し。もすり。トスリキ。し。そり。又明史。五年六年頻入貢。云々。十一月再貢。十二月。其國世子源義持遣使来告父喪。命中官周全往。祭賜謚恭獻且致賄。又遣官齋勅。封義持為日本國王。時海上復以倭警告。再遣官諭。義持勦捕。そ。そ。小史記。永樂五年五月廿六日の。明王が考をのぞ。すり。テ十二月。多く。の。應。水十五年五月。小鹿苑院前大將軍亮。と。勝定院大將軍。と。御使ひ。仗。十二月。かく。王が所。い。と。と。と。と。と。と。と。

の主より仕とて。故大將軍を祭る文。勝

定院大將軍へよひの考えども。國宝記載より。

又明史。八年四月。義持遣使謝恩。尋。獻所。護海寇。

帝嘉之。明年二月復遣王進齋勅褒賚。其君臣謀阻。

進不使帰。進潛登船。從他道遁。是久不貢。之り。

又。義持遣使謝恩。日本主王。封。之の旨と

モ。之。と。ど。は。勝。定。院。大。將。軍。ハ。が。明。王。が。封。

を。乞。き。へ。ま。小。あ。い。又。遣。使。も。け。り。そ。ま。ト。さ。し。

ウ。ト。に。く。く。く。ソ。ベ。但。一。ま。の。も。み。玉。ミ。

ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。

ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。ト。

華人被掠者。亦令送還。明年四月。其主遣使。植淵等。

奉貢。云々。と。う。し。こ。そ。う。へ。す。は。か。く。刑。

か。う。そ。し。明。年。其。王。遣。使。隨。淵。等。來。貢。く。つ。と。又。

ご。ん。ゆ。れ。す。し。ま。あ。く。は。宝。記。一。

称。光。天。皇。の。御。安。息。小。廿。六。年。不。明。少。り。あり。く。了。仪。の。東。人。  
え。ぞ。う。ま。ア。ト。使。臣。呂。淵。去。歲。奉。國。命。齋。勅。書。就。  
帶。倭。人。来。日。本。國。公。幹。金。人。通。報。國。王。命。古。幢。長。老。  
到。海。濱。未。曾。審。詳。未。意。長。老。旋。車。後。一。向。信。息。不。聞。  
父。此。齋。捧。勅。書。回。京。師。今。復。蒙。遣。齋。捧。勅。書。重。來。  
云。永。樂。拾。漆。年。漆。月。恰。參。日。と。ア。シ。ル。ト。リ。ハ。呂。淵。

そ。王。ガ。書。を。下。ふ。え。下。て。あ。ら。で。ソ。ダ。ホ。ア。リ。ハ  
カ。也。キ。ヤ。そ。て。又。ば。ぬ。明。の。使。ふ。ト。イ。セ。リ。テ。書。二。つ  
ア。リ。ミ。潤。ハ。下。に。江。や。く。滿。ベ。ー。モ。の。が。不。ひ。ひ。ト。  
前。入。ね。軍。の。い。ま。の。い。め。小。作。で。る。ま。く。し。ロ。ト。  
ト。り。て。明。小。の。ハ。も。フ。好。通。好。キ。ア。リ。ク。ト。  
モ。ヨ。リ。ト。ス。ヒ。入。ね。軍。の。い。め。不。溝。使。け。リ。ト。テ。ア。リ。  
ヒ。リ。リ。事。を。お。ほ。の。ま。ち。小。ち。う。だ。笑。も。く  
く。お。も。し。と。貞。主。の。人。ま。と。ト。ト。の。人。ま。と。  
ト。ト。ま。と。い。つ。も。と。ト。ト。ガ。お。も。レ。ト。モ。キ。ん  
ト。ト。ま。と。い。つ。も。と。ト。ト。ガ。お。も。レ。ト。モ。キ。ん

から後ひくもんやく農苑院大内軍の兵に活  
かしたてまひ小手りて使ふ、ひきとひあすとく。  
ましれを又もま車馬廻リ、事うしわく等持寺  
の古幢コウツウにしやくして、又そのひきとひあすとく。人  
のましとひあすとくを。すゞじうの王が許アシタへしば作のう  
びじくがんえ。スーと今奉はをましられ。お  
はだもふみ王エミノミコトとまうさんマラサンと。漢文  
をく作せばひらが。かほく書カブクのふじきと。又  
かほくや。おののまくマヌカとひげいじつヒヅツと  
ちほくチホクと。まくとねく。まし

けよ。まばうり上がまくらく。作ハホ。つとよ。  
し、まくらうそうりおりへ、はうを積ムク了ムク。  
どものふきひして。おはへまくのまくらひを  
き。よく語ハシマシ。まくらうそマクラウソ。まく  
ら。まくらへまを積ムク了ムク。けよひのくケヨヒノク。おくくとて。え  
かくのまくらへまを積ムク了ムク。けよひのくケヨヒノク。おくくとて。え  
のまよ。まくらうそマクラウソ。まくらうそマクラウソ。まく  
らはたびひ。まくらのまくらうそマクラウソ。まくらうそマクラウソ。まく  
らをまくらうそマクラウソ。まくらをまくらうそマクラウソ。まく  
らをまくらうそマクラウソ。まくらをまくらうそマクラウソ。まく  
らをまくらうそマクラウソ。まくらをまくらうそマクラウソ。

のは。のまくうりて。のひりもひひ。ひび  
のやまとすじ。ひらうんと。ひひもひ。ひ  
王へ。こうくの作。の。し。こ。か。か。く。て。お  
れ。う。に。の。は。ま。ま。う。く。う。て。ハ。ま。と。る  
き。は。り。と。い。え。王。ま。う。ふ。う。に。う。ま  
ま。と。う。う。じ。沖。ま。の。じ。び。の。も。え。ん。ま。の。う。を  
し。ま。ふ。又。や。じ。き。不。ト。う。ま。と。や。う。う。ま。そ  
し。ら。あ。う。ひ。ぐ。り。て。だ。く。方。く。は。た。ま。し。く  
復金

じ。ま。べ。し。山。成。祖。ハ。御。下。は。く。皇。帝。を。も。ひ。し  
う。方。に。下。ゆ。ま。ば。さ。う。ま。ま。き。少。ど。う。ば。も  
一。ま。と。育。り。し。う。ハ。は。作。ゆ。の。綱。を。ば。深。く。か。く。て。  
そ。う。り。ま。ア。ス。な。小。れ。ま。の。ま。う。し。よ。ハ  
う。う。う。う。ハ。ま。で。左。ハ。二。世。は。人。の。軍。の。は。や。じ。の。り。わ  
う。う。け。ひ。り。く。し。う。し。の。ま。可。不。可。可。を。だ。う。く  
御。ん。よ。ハ。馬。鹿。死。院。大。将。軍。の。れ。應。永。八。年。ふ。づ。い  
の。沖。書。ハ。日本。准。三。后。某。上。書。大。明。皇。帝。陛。下。日  
本。國。國。關。以。來。無。不。通。聘。問。於。上。邦。某。某。東。國。鈞。海  
内。無。虞。特。遣。往。古。之。規。法。而。使。肥。富。相。副。祖。阿。通。好。

獻方物。某誠惶誠恐頓首謹言。う。あがひ

る。皇國の名。大字を記す。う。て。ひ。ま

の名。人のとおり。もろい。う。某と。お。室

記。ひふとく。う。く。の。せ。う。し。す。康富の記

の。せ。う。よ。ひ。か。道義。う。道義。ち。の。り。れ

ひ。名。上書。く。や。ま。ひ。の。一。法。う。道義。ち。の。り。れ

じ。皇帝。と。よ。ふ。ふ。う。く。の。う。く。の。う。く。の。う。

う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

本。開。廟。以。來。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

戎

帽

う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

多ひとも。その人の心がんばり。よくよと。ひねりと  
もやぶべらまこと。こぶんち。わくゆのひづるみの  
みづるまこと。なまけものまくら。もぐれと。うきをと  
ぬきをと。そひゆきのひきへくして。明王よりすり  
一書。奉天承運皇帝詔曰。覆載之間。土地之  
廣。不可以。數計。古聖人。彊而理之。於此貢賦力役。知  
禮義。達於君臣父子大倫者。號曰中國。而中國之外。  
有能慕義。而來王者。未嘗不予以進之。非有他也。所  
以革天下。同歸于善道也。朕自嗣大位。四夷君長朝  
獻者。以十百計。苟非戾於大義。皆思以撫柔之。茲爾。

日本國王源道義。心存王室。懷愛君之誠。踰越波濤。  
遣使來朝。朕甚嘉焉。日本素称詩書國。常在朕心。  
今遣使者道尋一如。班示大統曆。俾奉正朔。俾  
天下以日本為忠義之邦。則可名于永世。建文四年  
二月初六日。奉天承運。大明皇帝。日本國王  
より。の王がつひのうひと。の月。ひくびんとを  
りも。うまでも。かくあおれ。かくおひく。うか  
とふ思ふて。人をうごじくぞ。日本國王も。いふ。  
あく。うりべ。まよ。准三后。うづしき。あづび。が  
やまく。うま。そべく。玉。玉。うで。伎をう。書

をひき。私のまことに。おへるみの、お  
きてうしゆを。きてて玉もいひうて。おひき  
てをにて。又

天皇みそまことと。かぞりて、ほんの軍をもひ  
く玉たまりて。まこととがわものん。くよのお  
きとすとすと。すくねるにまづくつて。文  
へして。まへじびきんのんは、こをもひし。道義  
くひふをうつ。せんじくくわや。まつ  
まくくわくとくま玉たまへつりと書のまひ  
まく。清風の人の軍。まつまく、ひきまきと

く。まくまく、ひきまく。まくまく、ひきまく。  
愛君之誠こゝ。君ごうきて、かくかくをもひて、ちを  
く。まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。  
てわやう。日本素す称めい詩書國。まくまく。  
まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。  
まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。  
脣くち。脣くち。奉まつ正まさ朔しやく。まくまく。まくまく。  
いや。まくまく。まくまく。正まさ朔しやくをまく。まくまく。  
まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。

戎秋

く。むろげといひきをもと。つるぐ。やうし。お  
まへ、えどりぬけし。ほくじゆて。ばくまもひ  
じ。そくや、かしづくべきめし。のみの  
建文六年。應永九年。おわづき。かくて三年又  
け。沖喜。日本國王源表臣聞。云くとあ  
る。とある。源字の下不道義とうがんを。例の  
も。そくあり。載。くわづ。そく。そく。沖喜。  
そくのそくし。今一きくとある。そく  
くわづ。そく。そく。そく。そく。國寶  
記。瑞溪。いしばらの書。詰。滿。く。彼國以  
上。

吾國將相為王。蓋推尊之義。不必厭之。今表中自称  
王。則此用彼國之封也。無乃不可乎。今  
年。若もして日本王とするを。推尊とす。ハ  
んよのゆす。うそく。ひき。まを。そく。そく  
て。お。黙。考。了。ね。又。お。日本國王とのま  
へ。そく。そく。そく。そく。そく。そく。そく。そく  
或人のちゆる。説。そく。そく。そく。そく。そく  
く。ひ。そく。そく。そく。そく。そく。そく。そく。

大將軍へ朝鮮國王を書あし。日本天王と日本  
のりと。こくとせきとはゆ。

沙書よ。こくとせきとはゆ。

天皇

ハシすすめシのシ義シ。

ばシ御シ國シのシ義シをシへシおシうシ候シ。ひシえシんシで  
うシとシ多シ。かシをシそシ寧シ氏シ。

大將軍をすシ。名シ。

皇朝

神シ。

職シ。

征夷大將軍をすシ。

らシ作シさシすシ。伊シのシ號シ。

とシとシ。中シにシ名シ。

きシとシ。偏シ名シ。

大シ義シ。

の例シ。

只シ。

又シ用シ臣シ字シ。

不得シ已シ。

則シ日本國シ之シ下シ。

如シ常シ當シ。

書シ官シ位シ。

其シ下シ氏シ與シ諱シ之間シ。

書シ朝シ臣シ二シ字シ可シ乎シ。

蓋シ方シ公シ卿シ恒シ例シ。

則シ臣シ字シ屬シ於シ吾シ。

皇シ而シ已シ。

可シ避シ臣シ於シ外シ國シ。

之シ嫌シ也シ。

大シ官シ位シをシ而シてシ源シ朝シ臣シ二シ字シ。

んシ。

伊シのシ式シ。

戎人。朝恩を以てゆきをわぢ。  
不識

よし。ひらき。朝恩を以てゆきをわぢ。  
置  
とひて。そのおき所で。うそともりへ。  
戎  
がのうさんと。すあじつ。ほど。臣字とみ王へ  
きそんせんと。わやび。うそともりへ。  
か  
さくは。そぞくと。そもん。しあわせじ。か  
い。蒙たが。やさくふちわくへ。近からざは。み  
うそともり。まこと。ごうくくわくへ。あつ  
きり。うそ。下まつ。皇玉と。ばいく。からて。うそ

をして。ひらき。ひととおもとんと。むかわとえと  
が。とをか。しとて。と。とおし。おまを。ひらき。  
うそ。まかして。ときと。うね。の。だ。い。征

夷大將軍とのそし。  
天皇  
が。も。いく。おも。おの。おの。おの。威徳  
皇恩の。おも。おも。おの。おの。おの。おの。おの。  
めし。皇恩。おも。おの。おの。おの。おの。おの。

天皇。おも。おの。おの。おの。おの。異  
どへ。おね軍。おの。おの。おの。おの。おの。おの。



まふ日本國王とすます。くづみのうね。  
そんじうす。定めぬも。とすくふ。す。  
まがトひきを小ちびひ。又臣とくへり。まくあ  
」。

皇朝へまえり。不忠

らのやつこふりて。おの代も。さき恥をのこ  
りうる。天地よりきてのう。まくまくは  
びかきまくす。づくづくきむびくして。づ  
くまくいもとせんたふくしもとけくと  
じ。そんじぞうりす。次ふのひ書の表にす

ま。明成祖が奉天承運皇帝制曰。咨爾日  
本国王源道義知天之道。達地之義。朕登大寶即來  
朝貢。帰嚮之速。有足褒嘉。用錫印章。世守爾服。永  
樂元年十一月十七日。同五年五月廿六日。至  
今。同四年正月十六日。同五年五月廿六日。至  
今。三方の書。いづども皇帝勅諭。日本國王源  
道義。とくといつ。ひ書。ともかく。とど。傷のあら  
ゆを。いづく。とく。とく。とく。とく。とく。いつ  
らく。甲子。うちのすうじと見え。又び天の軍のふ  
のす。へき。ひき。とく。そと。といふ。とく。とく。

のうれまでは先をうて。日本自古國以来。如王之  
賢達者。蓋未之有也。ナモ。アキラマヒテ。モ  
相も。イモ。ことをせよ。トク。カタハタシヒ  
の。ハジテ。ナシ。アリ。ソアガ。シム。モシ。シテ。モ  
ハナシ。アリ。ノ。ハナシ。ヒミト。トトロ  
ヒタシ。ハシナシ。ハナシ。アリ。ノ。ハナシ。シム。モ  
ジト。シナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。ト。シナシ。  
ヤ。アキラ大將軍。ナリ。アキラ。ヒヒの事。或  
書。應永八年。道義贈書并物。于大明國建文皇帝

賜璽書。同十年。大明成祖皇帝。賜書于道義。告其即  
位。今トドカラシ。ハ。ナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。ト。シナシ。  
人モ。ハ。ナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。  
前大將軍源道義。遣使明國。賜書及物。其王。其王  
朱允炆。奉書謝之。また明王朱棣。奉書前大將軍。告  
其即位。ナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。  
人モ。ナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。  
小人モ。あく。モ。アリ。内。外。の。モ。アリ。カク。テ。アリ。  
アリ。ナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。ト。シナシ。アリ。

をふとくととふりこぐ。次へは應永廿六年

義持公

年七月小勝定院大將軍ハ明ミシニの使ハ作ハ

津ハ、ハ夷大將軍某告ハ元容西堂ニ有ハ大明國使臣來說兩國往來之利然而有大不可者本國閑闊以來百皆聽諸神神所不許雖云細事而不敢自施行也頃年我先君惑於左右不詳肥富口辯之術猥通外國船信之間ハ後神人不和雨腸失序先君尋亦殂落其易簣之際以冊書誓諸神永絕外國之通間就カ先君之告命而犯諸神憲章哉去歲既命吉幢長老往諭此意今有使而至蓋前諭之未達也又

責シテ以海嶼小民數侵邊圉是實我所不知也今倘云止ド之則前モ亦知而令ハシマツ之也豈有人主而教民為不善者乎何不思之甚矣雖然逋逃亡命或竊身於蔓絶之海島時々出害邊民者恐有之當命沿海之吏制焉西堂ハ此件欵ク說ハシマツ之應永廿六年七月廿日トりうこの沙書の紙シテいとあらー但ハシマツ大明小とある大字例のよろくハシマツを不古ハシマツうそハシマツすハシマツ。今もこれ一ハシマツりの事ハシマツし同ハシマツくハシマツ皇朝ハシマツつるぎハシマツ。

百皆聽諸神云ハシマツまと小皇嘗ハシマツの内ハシマツふうしてハシマツとハシマツくハシマツくハシマツき作せし。まへてハシマツかハシマツ人ハシマツ小ハシマツ先ハシマツも

あふし。は小けいのたのことを。ひよとよだきと  
し。ゆきをもどりわくのいのたれ。うわゆきをりて  
もげをそと。わうだまくし。先君惑於左右。と  
まこと小まことし。肥富を人名し。富宇。平ノ瀬<sup>アシナガ</sup>で  
官とす。と花紫れわこへも。もわうへじひ  
経んとをそりかと。や。そ。慈永八年ねがの御役  
大作つる。とえまつり。者つて。うのきうの御書小  
さくと。は者のうすび。とべつや。まゆるまゆる人か  
じ。と。を。あくひく。いそじつとせす。やと。あく。  
そのひくら。は。闇のくらをと。ひも。うで。こ。く。ふ。

の。と。す。ゆく。う。と。よ。と。め。く。と。と。よ。と。よ。と。  
よ。ハ。あ。り。と。ゆ。と。ね。と。ち。な。と。と。よ。と。と。の。と。う。に  
来。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
ん。も。ま。し。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
小。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。花。紫。へ。往。て。と。と。使。呂。潤。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

請。まことに。止。許諾。

余。之。所。以。不。肯。接。明。朝。使。臣。者。其。亦。有。說。先。君。之。  
曰。夫。與。鄰。國。通。好。商。賈。往。來。安。邊。利。民。非。所。欲。乎。然。  
而。余。之。所。以。不。肯。接。明。朝。使。臣。者。其。亦。有。說。先。君。之。  
得。病。也。卜。諸。神。為。祟。故。以。奔。走。精。禱。當。是。時。也。靈。  
神。託。人。謂。曰。我。國。自。古。不。向。外。邦。稱。臣。比。者。變。前。聖。  
王。之。為。受。曆。受。印。而。不。却。之。是。乃。所。以。招。病。也。於。是。  
先。君。大。懼。誓。于。明。神。今。後。無。受。外。國。使。命。因。垂。誠。于。  
孫。固。守。母。墮。其。後。僧。使。堅。中。與。明。朝。行。人。偕。來。余。欲。

不。接。之。以。其。未。以。如。上。事。論。使。臣。亦。為。予。先。君。來。故。  
違。誓。而。迎。之。及。于。使。臣。之。歸。令。堅。中。為。諭。此。意。不。知。  
未。詳。通。乎。大。歲。使。船。重。來。亦。使。等。持。長。老。童。傳。此。趣。  
使。臣。歸。到。本。國。胡。不。以。此。意。違。爾。主。耶。余。之。所。以。不。  
接。使。臣。不。遣。一。介。者。非。敢。特。嶮。阻。不。服。也。順。明。神。  
之。意。奉。先。君。之。命。以。行。事。耳。昔。元。兵。再。来。奔。師。百。萬。  
皆。無。功。而。溺。于。海。所。以。何。者。非。唯。人。加。實。神。兵。陰。助。  
赫。可。不。恐。乎。事。誤。國。史。今。聞。將。以。使。者。不。通。為。辭。用。  
兵。來。伐。使。我。高。深。城。池。我。不。要。高。我。城。亦。不。要。深。我。

池除路而迎之而已。至夫寇掠邊圉則逋逃之徒竄於海島之間者之所為也。欲討電滅颶逝師還則烏合蟻聚而不受吾命者也。捕而戮之可也。奚必帶而來哉。未嘗亦云使臣至中國或拘留或殺戮聽爾所為是何謂哉。吾不欲拘殺使臣只要彼不來此不往各保封疆莊子曰民至老死而不相往若此之時則至已不亦休。西堂以此意諭明朝行人速回舟楫幸甚。王公爾主之曰。到了之後請先到。次日。次日。明王公到。以次事皆已辦。遂到。次日。次日。明王公到。非敢恃嶮阻不服。只了一句。仰天笑曰。我亦多矣。非敢恃嶮阻不服。只了一句。

おうとうとうまわし。不服とソト。税とをさぶるとおうとばし。いかじ。字。ばしひのもう。で。行ふくく。おもともかうじ。ちかはも。すりかど。あ、あきど。あ、あきど。人の汚すも。ぬのつとかき。まやめ。作さずかふぞ。あくいとてたく。あ、あく。あ、あく。あ、あく。かくてひ入ね軍の往ち。つひふうれゆ。はつ。あひゆ。ととく。又のあうへぬゆ。さうり。さうり。さうり。さうり。小明史よ又。宣德七年正月。帝念四方蕃國皆來朝。獨日本久不貢。命中官柴山。往琉



十年十月。以英宗嗣位。遣使來貢。統元年二月。使者還賚。王及妃銀幣。といつ。ナ年ハ。同。一宣德十年。モノ。永享セシホアリ。國慶也。又。永享六年。  
はづ。ソノマダリ。マツリ。ソトノハ。英宗が立了。  
を。賀。アガハ。コトニ。サタ。アリ。ナニ。此英宗が。立  
ハ。四七年。ナ年多代。六。年。カウハ。七年。ハ。御。之  
一。二。ノ。付。王。ナニ。ハ。モ。ス。カモ。ミテ。正統元年  
ニ。月初四日。ト。アリ。永享八年。ナ。ウ。アリ。洪武明  
史。景泰四年。入貢。至。臨清。掠。居。民。貨。ヨ。ニ。景泰  
の。小景帝。グ。年。少。セ。の。ニ。年。ハ。景德二年。ホアリ。モ。

小室記。寶德三年。ホ。慈照院太。軍。ム。ナ。マ。リ。  
涉。也。ズ。カ。ハ。義。政。公。明。主。ガ。ホ。ア。ト。リ。ホ。ド  
ホ。景泰五年。正。月。初九日。ト。アリ。ル。トバ。寶德三  
年。ハ。涉。役。二。年。ラ。ク。亨。德。二。年。に。ト。ヘ。モ。シ。ト  
ト。ヤ。次。又明。史。ト。天。順。初。其。王。源。義。政。以前。使  
臣。獲。罪。天。朝。蒙。恩。宥。欲。遣。使。謝。罪。而。不。敢。自。達。移。書  
朝。鮮。王。令。轉。諸。朝。鮮。以。聞。廷。議。勅。朝。鮮。要。實。令。擇。老  
成。識。大。體。者。充。使。不。得。仍。前。肆。擾。既。而。貢。使。亦。不。至。  
成化四年。夏。乃。遣。使。貢。馬。謝。恩。云々。といつ。天。順。い。か  
け。小。英。宗。ガ。ホ。ア。レ。モ。ナ。ト。ノ。年。号。ホ。ア。元。年。長

祿元年ふりとひ。移書朝鮮王。のま。康正二  
年ふ。因太行軍。朝鮮王。小賜ひ。帝。中に入り。  
朝鮮王。差へ。事。しわざ。成化も。憲宗。年  
号。や。の。年。ハ。

後土渉門天皇。世。應仁二年。宝記。寛  
正六年。因太行軍。小賜ひ。宝記。寛  
正七年。使。二年。後。應仁二年。小賜  
王。所。ハ。ノ。ル。し。い。書。瑞溪。と。約。う。を。  
書。白日西照。再。中。以。發。皇明。と。約。う。を。  
小。日本。の。光。と。の。小。一。當。一。ま。と。之。下。を。

ノ。ク。リ。ト。リ。シ。ク。リ。ヒ。又。永。享。六。年。小。惟。宵。ノ。リ。  
前。ノ。リ。の。は。書。秋。水。長。天。極。目。難。迷。上。丁。春。風。  
和。氣。同。仁。宣。阻。東。西。し。つ。達。ハ。浦。山。も。み。ま。上。下。  
け。る。し。り。カ。ミ。え。く。き。と。を。ゆ。く。く。う。と。い。う。さ。  
と。ど。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
之。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
一。て。お。お。人。の。と。と。す。か。駒。と。よ。り。ば。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

んまし、あく。や、ミ、リ、人、も、へ、き、る、も、じ、う、す、や。次

笑

小牧史ホトケシ。十三年九月、未貢。使、者、述、其、王、意、請、於、常

例、外、増賜、命、賜、錢、五、萬、貫、二十、年、十一、月、復、貢、と、

も。ひ、か、ろ、成、化、十、三、年、八、文、明、九、年、二、十、年、八、同、十六、年

小、牧、史、も、宝、記、小、牧、大、將、軍、十、九、文、明、七、年。又、同、十、五

年、に、つ、と、し、沙、夷、國、大、將、軍、十、九、文、明、七、年。又、同、十、五

さへとし小人トトロ。ひれ志院大内軍の。文明十五

年につく。書の中。抑弊邑久美焚蕩

之餘銅錢掃地而盡。官庫空虛。何不利民。今差使者

入朝所求。在此耳。聖恩廣大。願得壹拾萬貫以滿其

所求。則賜莫大焉。といつてゆる。

皇朝

の大將軍ともあつて。天下を改め。君のゆゑにわ

ちをある。小方貫の陳アシテ。えんも。人のまへ

まく。あきりのまひつ。天地をもくとく。りよく。とし

ふはす。のつみ。じ。天地をもくとく。りよく。ば足利

の。の。の大將軍の。は。政。持。持。持。持。持。行。り

と。あ。き。ま。く。わ。く。一。せ。と。か。う。き。と。も。う。く。と。先

後醍醐

後村上

後龜山

罪

皇朝

朝廷

礼典

づ。の。す。も。か。べ。く。あ。う。か。か。く。へ。く。の。中。ハ。ト。野

山の本草のあれあるびえ。それにてるもにかん有  
る。あらわきどと、とと禍津日神のうじう

いどめ。えぐのまがふとふしやをとす。こそ、小

太津日嗣の御位へ。いまととだくろさりふすかくて。神

かづけりうまくもせば。又その伊勢元立。アラカツテ。

ヤジコあらねど。アカシヤをとく總見院右大臣。豊國

信長公  
秀忠

神乃おひもじ。阿ト尾注まとう出落ひく。

皇朝

宗

尊

アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。

アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。

皇朝

信

徳

アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。

アトモアタマ。

アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。

アトモアタマ。

信

徳

アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。アトモアタマ。

アトモアタマ。

信

徳

アトモアタマ。

信

徳

アトモアタマ。

信

徳

アトモアタマ。

信

徳

アトモアタマ。

部	文學
番号	ノ54
(三)	
年月日	多根中學圖書部藏

本校之圖書室，其藏書之多，種類之廣，實為吾國各校之冠。其藏書之數目，約有數萬冊。其藏書之內容，以人文科學為主，尤以中國古典文學為最。其藏書之管理，由圖書部主任負責，其下有圖書員若干人。其藏書之借閱，由學生、教員、外賓等均可申請。其藏書之保存，由圖書室專門負責，並定期進行整理、修復、更新等項工作。

